

京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab が京都より発信するビエンナーレが2020年3月スタート  
**都市デザインを主軸としたビエンナーレ「KYOTO Shaping the Future」**  
 初回のテーマは **食がつくる都市**



京都工芸繊維大学 KYOTO Design Labは、2020年より隔年開催のビエンナーレ「KYOTO Shaping the Future」を開催します。初回となる今年は、2020年3月27日(金) - 29日(日)、「京都市勤業館みやこめッセ」にて、「食がつくる都市」をテーマに3日間に渡る展示を行います。人間が生きていくうえの根源的な行為である「食」のありようそのものが、都市や環境をかたちづくってきました。本展覧会ではまず京都の食をめぐる循環構造を歴史的な視点からリサーチし、これを最先端テクノロジーと掛け合わせることで、「食」から派生する新たな未来都市の可能性を描きたいと考えています。KYOTO Design Labは、さまざまなコラボレーターとともに、京都ビエンナーレ「KYOTO Shaping the Future」を通し、一歩引いた視点から京都を俯瞰し、社会のリデザインを提案し、新たな都市の未来像を提示していきます。

それに先立ち、1月18日(土) - 2月9日(日)にかけ、KYOTO Design Lab 東京ギャラリーにて、展覧会の概要をご覧いただける「Preview Exhibition: KYOTO Shaping the Future」を開催します。

#### 展覧会概要

名称 | 京都ビエンナーレ 国際都市デザイン展 2020 KYOTO Shaping the Future——食がつくる都市  
 日時 | 2020年3月27日(金) - 29日(日)10:00-19:00 (27日のみ13:00開場)  
 会場 | 京都市勤業館みやこめッセ 第3展示場B/ 京都府京都市左京区岡崎成勝寺町9-1  
 主催 | 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab  
 共催 | KYOTO STEAM—世界文化交流祭—実行委員会  
 後援 | 在日スイス大使館

コラボレーター | シャディ・ラーバラン&マニュエル・ヘルツ、大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所、  
 スイス連邦工科大学チューリッヒ校 クリストフ・ジロー研究室  
 コンテンツ制作 | 岡田栄造+岩本馨+水野大二郎+木下昌大+三宅拓也 [京都工芸繊維大学]  
 会場構成 | 武井誠+満田衛資 [京都工芸繊維大学]  
 アートディレクション | 西村祐一+綱島卓也 [Rimishuna]  
 ウェブサイト | <https://www.k-s-t-f.com>

#### イベント

名称 | Preview Exhibition: KYOTO Shaping the Future  
 日時 | 2020年1月18日(土) - 2月9日(日) 12:00 - 19:00 閉廊 | 月・火  
 会場 | KYOTO Design Lab 東京ギャラリー/ 東京都千代田区外神田6丁目11-14 アーツ千代田3331 203号室

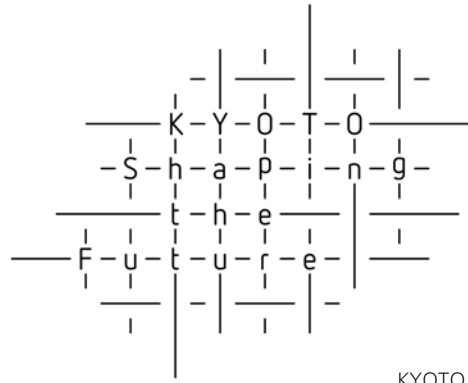
#### 令和元年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

本展覧会は、「令和元年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」であり、KYOTO STEAM—世界文化交流祭—2020の連携プログラムとして実施します。



一般お問合せ | 京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab  
 MAIL. [info@d-lab.kit.ac.jp](mailto:info@d-lab.kit.ac.jp) TEL. 075-724-7283  
<https://www.k-s-t-f.com> | Facebook: @kyotodesignlab | twitter @kyotodesignlab

プレスお問合せ | HOW INC.  
 MAIL. [pressrelease@how-pr.co.jp](mailto:pressrelease@how-pr.co.jp) TEL. 03-5414-6405 FAX. 03-5414-6406



KYOTO Shaping the Future ロゴデザイン

## KYOTO Shaping the Future について

京都という都市はしばしば歴史都市、伝統都市として語られ、日本人にとってはノスタルジーを、世界の人々にとってはエキゾチシズムを感じさせるように演出されがちです。しかし京都が1000年以上にわたって都であり続けてきた理由は、この都市が伝統を継承してきたと同時に、たえず周囲の魅力的な文物を吸収し、それをあたらしい価値として練り上げ、「未来」を発信してきたことにあるのではないのでしょうか。京都はその時代時代における「未来」をかたちづくってきたのです。また、三方を山に囲われた京都では、たえず内と周縁をさまざまなレベルで区切り、それらの交流をイノベーションの源泉としてきました。

現代の京都は、豊富な美術・工芸・建築・町並みなどの歴史的遺産を有する都市であるとともに、数多くの大学が立地する研究学園都市でもあります。やはり周縁の地にある京都工芸繊維大学KYOTO Design Labは、一歩引いた視点から京都を俯瞰し、国や分野の垣根を越えた共同研究に取り組んでおり、最先端のデジタルテクノロジーによる都市解析・リサーチをふまえた社会のリデザインを提案しています。「京都」から考える、日本発の未来都市ビジョン。私たちは隔年開催の展示（ビエンナーレ）を中心とするプロジェクトKYOTO Shaping the Futureで新たな都市の未来像を提示します。

ロゴデザインは、その象徴として京都から周縁に延びる路を図案化しています。

## 第1回テーマ「食がつくる都市」について

第1回目となる展示会のテーマは「食がつくる都市」としました。「食」は人間が生きていくうえの根源的な行為であり、そのありようそのものが人間を取り巻く都市や環境をかたちづくってきました。食材の生産は原初的な自然を人工的な自然に変えてきましたし、作られた食材の流通・食物への加工は各種インフラの発達を促しました。さらに食物の消費は祭礼、呉服、建築と庭園、各種藝道とも密接に関連するものです。本展示会ではまず食をめぐる循環構造を歴史的な視点からリサーチし、これを最先端テクノロジーと掛け合わせることで、「食」から派生する新たな未来都市の可能性を描きたいと考えています。

### ■ 展示コンテンツ テーマ展示

#### 都市模型プロジェクションマッピング

模型（直径15mほど）を会場中心に配置し、そこに1000年以上にわたる都市空間の変化や食と都市の関係を表す映像を投影します。都市の変化や日々の動きを体感できるインスタレーションです。

#### 京都を形づくる食 | Food Shaping Kyoto コラボレーター | シャディ・ラーバラン&マニユエル・ヘルツ

京都における「都市」と「食」のダイナミックな関係を、6つのキーワード〈生産、水、市場、流通、都市形態学、祇園祭〉で読み解き、建築や料理の模型、錦市場で使用されている道具、リサーチの成果をあらわした図・写真・映像などにより可視化する展示です。

### ■ 展示コンテンツ プロジェクト展示

#### 絹の未来

京都の織物技術を支えてきた素材である絹をゲルやスポンジ状につくり替える先端技術と、デジタル工作機械を用いたデザイン手法を組み合わせることで、絹のみに加工・製造された環境負荷が低く、かつ多様なニーズに応えることができる衣服のデザインプロセスを、素材実験の成果とともに展示します。

#### Food Shaping the Future コラボレーター | 大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所

さまざまな環境の変化がもたらす新たな「食」のニーズを調査した上で、近未来の食文化を構想し、それを可能にする技術とサービスを開発。開発したシナリオやプロトタイプの映像や実物を展示します。

#### 点群庭園 コラボレーター | スイス連邦工科大学チューリッヒ校 クリストフ・ジロー研究室

山裾にひろがる詩仙堂の庭、現代建築の庭園（虎屋菓寮 京都一条店）、京町家の坪庭（一般民家）の大小3つの庭を3Dスキャンして制作した映像を壁面プロジェクション展示します。仮想環境ながら、現実には不可能なダイナミックな庭園空間をご体感ください。

## 別添参考資料 テーマ展示概要

## タイトル

京都を形づくる食 | Food Shaping Kyoto

## コラボレーター

シャディ・ラーバラン&amp;マニュエル・ヘルツ

## 参考動画

<https://youtu.be/14YoN-ukzR0><https://youtu.be/ucGTIXPeVy0>

## Photo

Tomomi Takano



京都を形づくる食 (Food Shaping Kyoto) の展示は、京都を舞台に2015年から共同で実施してきたリサーチとワークショップの成果です。このプロジェクトでは、食物とその流通が、京都という都市の文化やデザイン、組織や建築をどのようにかたちづけてきたのかを探ります。2019年6月、ドイツのヴィトラ・デザイン・ミュージアムとの共催で、同館にて Food Shaping Kyoto展を開催しました。

## コラボレーター プロフィール

シャディ・ラーバラン (Shadi Rahbaran) <https://www.rharchitekten.ch/>

Rahbaran Hürzeler Architects。専門分野は建築・都市設計。

スイスのバーゼルにあるRahbaran Hürzeler Architectsを共同創設した建築家であるとともに、北西スイス応用科学芸術大学 (fhnw) 建築研究所でデザインと建設の教授をつとめる。またETHスタジオバーゼル現代都市研究所で教鞭を執ったほか、コーネル大学の客員デザイン講師をつとめ、京都工芸繊維大学 KYOTO Design Labで都市研究プロジェクトを実施する。主宰事務所の作品は、プロダクトデザインから、建築設計、都市計画まで、あらゆる規模とプログラムにおよび、スイス、フランス、ドイツで実現している。近年の作品として、バーゼルにおける移動可能な低エネルギー住宅の実験的プロトタイプ、スイスアルプス地方のエンゲルベルグ小学校、フランスにおけるふたりの音楽家のための木造住宅と音楽堂、ライヒェンブルグの高齢者介護センターがある。

マニュエル・ヘルツ (Manuel Herz) <http://www.manuelherz.com/projects>

バーゼル大学人文社会科学部教授、専門分野 建築・都市設計。バーゼルを拠点とする建築家であるとともに、スイスのバーゼル大学で建築・都市デザインにおいて教鞭を執る。建築プロジェクトとしては、マインツのシナゴーク (ドイツ)、ドイツ・フランス・スイスの住宅プロジェクト、セネガルのタンバクンダの病院など。研究としては、現代における移動者の建築と都市の変容を中心テーマとしている。

## 別添参考資料 テーマ展示概要

## タイトル

絹の未来

## 関連プロジェクト動画

<https://youtu.be/UBtQJ6AKipA><https://youtu.be/xKvnyl3xYjE>

## Photo

Juuke Schoorl



デジタル・ファブリケーションやバイオテクノロジーなどの知見によって新たな人工物と自然物の関係性が紡ぎ出されるとするならば、どのようなデザインをとりまくモノの生態系の構築が可能だろうか？日本の養蚕から精練、製糸、織布、そして染色や縫製、流通に至る包括的な工程の持続可能な運営が課題としてあげられる中、デジタル・ファブリケーション技術の普及や、バイオテクノロジーを応用した新素材の開発などによって、再び絹の可能性が注目されています。京都には絹織物が形成した文化や地域が今も息づいているものの、すでに原料の多くは輸入品であり、モノの生態系は大きく変容しています。遺伝子組み換えによってデザインされたシルクは新たな素材特性を帯びる上、容易に養育可能で維持可能な素材です。本プロジェクトでは新たなモノの生態系の構築によってデジタル・ファブリケーションを前提としたデザインの可能性について、京都工芸繊維大学 応用生物学系 小谷英治 教授協力のもと思索した成果を発表します。

## タイトル

Food Shaping the Future



地球規模の気候変動や資源枯渇、人口増加が顕著な一方で我が国では高齢化などに直面し、我々の食を取り巻く状況は維持可能なものでないとしたら、将来どのような新たな食べ物やサービスが生まれるのでしょうか？

大阪ガス株式会社エネルギー技術研究所とKYOTO Design Labとの共同研究である本プロジェクトは、「ありうる未来の食」に関するデザインを多角的に調査、提案、検証することを目的として今年度から開始されました。本プロジェクトは、実践的デザインリサーチ（Research through Design）を前提に、未来の食に関係する問題発見・問題定義のための利害関係者を巻き込む「調査法としてのカードゲーム」開発や、フード3Dプリンタを用いつつ、できるだけ多くの人が好きな時に、好きなものを食べることで自身の健康やQOLの向上を図ることができる「未来の食べ物やサービスデザイン」の開発をおこなっています。

## コラボレーター プロフィール

大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所

<https://www.osakagas.co.jp/>

エネルギー技術研究所は、大阪ガス全社の研究所として革新的な研究開発に取り組んでいる。燃料電池技術やガスセンサー技術、石炭ガス時代から培った触媒技術などを活用したエネルギー事業に貢献する研究開発を進めるとともに、フルオレンセルロスやグラフェンなどバイオマス系や炭素系のナノ材料技術、独自の発酵技術に基づくバイオ技術、シミュレーション技術などを活用したライフ&ビジネスソリューション事業（エネルギー事業で培った技術や事業ノウハウを生かして展開するエネルギー事業とは異なる事業）に貢献する研究開発も進めている。その中で、食品加工・調理でカギとなる食材の変化を、これまでの蓄積・保有技術であるガス機器評価技術や構造解析技術を駆使して解明するとともに、得られた知見から新たな食品分析技術の開発や食品加工・調理の制御に応用展開するフードサイエンス分野の研究開発にも積極的に取り組んでいる。



## 別添参考資料 テーマ展示概要

タイトル  
点群庭園

コラボレーター

スイス連邦工科大学チューリッヒ校 クリストフ・ジロー研究室

動画

<https://youtu.be/wN9g6yuVXyg>



食という行為はただ食物を身体に取り込むだけのものではなく、建築や庭といった環境との応答でもあります。スイス連邦工科大学チューリッヒ校のクリストフ・ジロー教授が主宰するランドスケープ研究室との5年間にわたる共同研究により、京都の庭園や都市の3Dスキャンとサウンドレコーディングを実施し、独自の方法で収録したデータを再構築した作品を制作してきました。このアーカイブを再編集する事で、京都の空間／場を舞台に、食という行為に応答する環境を、映像によって再現します。

## コラボレーター プロフィール



クリストフ・ジロー 研究室 <http://girot.arch.ethz.ch/>

スイス連邦工科大学チューリッヒ校 クリストフ・ジロー研究室。ランドスケープ・トポロジー（位相幾何学）をテーマに掲げ、ランドスケープをデジタル化し、分析・設計するプロジェクトに取り組んでいる。点群データと音響技術の教育と研究が補完し合い、ランドスケープのモデリングと再現の技術が飛躍的に進歩した。研究室メンバーは、視覚と聴覚におけるランドスケープ表現を教育・研究することで、ランドスケープのトポジカルな定義を探求している。ランドスケープを視聴覚的に評価することで、建築設計の可能性を新たに広げることを目指している。

## 別添参考資料 KYOTO Design Lab について



国立大学法人 京都工芸繊維大学 <https://www.kit.ac.jp/>

京都工芸繊維大学は、芸術・文化の源である国際学術都市・京都に位置する、工芸科学部一学部で構成される工科系大学として、1899年以来、日本を代表する、デザインとエンジニアリングの実践的教育の場であり続け、科学と芸術の融合を目指す学風を時代の進展とともに百有余年にわたり発展させてきました。「人間の感性を涵養し、精神的な潤いや自然との調和を強く意識した、普遍性のある科学技術分野の創生」を基軸とし、バイオ、材料、電子、情報、機械、環境などの先端科学技術分野から建築・デザインまでの幅広い分野において、ものづくりを基軸とした「実学」を目指した個性ある教育研究をおこなっています。



KYOTO Design Lab <http://www.d-lab.kit.ac.jp>

KYOTO Design Lab [D-lab] は、京都工芸繊維大学が領域横断型の教育研究拠点として設立した、プラットフォームで、様々な団体や機関と協業をしています。2014年の発足以来、「Innovation by Design」をミッションに、さまざまな専門性が交差するインキュベーターとして活動しています。D-labは、世界中の大学から招聘する研究ユニットや学内のさまざまな分野の研究者、国際的な企業や地域の組織とともに、ワークショップや都市リサーチなど各種の国際的プログラムの実践を通じたイノベーションの社会実装に取り組んでいます。

## KYOTO Design Lab 活動一例

D-labでは、世界中から集まる一流の研究者やデザイナー、建築家らとともに、社会的な課題の発見と解決を実現を目指し、各種プログラムの実践の中で、全国規模の大企業のみならず地域の産業・経済界を支えるネットワークと連携し、社会貢献を進めています。



## Editing Workshop with Lars Müller

世界的なブックデザイナーであり出版社を主宰するラース・ミュラー氏を招き、共同ワークショップを開催。このワークショップでは、建築家ル・コルビュジエの歴史的名著『小さな家（原題：UNE PUTITE MAISON）』をテーマに、建築・デザインの魅力を伝える編集技術の習得が目指された。参加者は6チームに分かれ、それぞれが『小さな家』のコンセプトを原題の文脈で読み替え、新しいデザインと装丁を検討し、評価に値するアウトプットを生み出した。



## STEP IN CHANEL——わたしがシャネルと出会ったら、

世界的なファッションブランドとして知られるシャネルと協働し、「出会い」というキーワードをもとに、CHANELというブランドへの初めての出会いを学生がデザインしました。プティック見学やブランドの歴史に振れる中で得た驚きを、銀座CHANEL NEXUS HALLにてインタラクティブなインスタレーションとして発表しました。2019年6月22日から7月4日にかけての展示期間中は多くの来場者で賑わい、大変な好評を得ました。

KYOTO Design Labは、提携先と協業しプロジェクトの実施、共同スタジオの運営、交換留学など、活発な国際交流を行っています。

## これまでの提携先大学一例

英国王立芸術学院 (RCA)、デルフト工科大学、アアルト大学、シンガポール国立大学、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、バーゼル大学、ジュネーブ造形芸術大学 (HEAD)、ロンドン芸術大学 (UAL)、ブライトン大学、キングストン大学、パリ・ソルボンヌ大学、デザインアカデミー・アイントホーフェン (DAE)、ケルン応用科学大学 (KISD)、トリノ工科大学、モデナ・レッジョ・エミリア大学、ウィーン工科大学、デンマーク王立美術アカデミー建築学科・デザイン学科、国立台湾大学芸術史研究所、インドナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン、チェンマイ大学、スインバーン工科大学、スタンフォード大学、コロンビア大学

## これまでの提携先企業および団体一例

ヤンマーホールディングス株式会社、凸版印刷株式会社、ANAホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、デュボン・スペシャルティ・プロダクツ株式会社、デュボン・スペシャルティ・プロダクツ株式会社、京都市錦市場商店街振興組合、京都錦小路まちづくり合同会社、洲本市産業振興部、今宮神社、株式会社八清、国立研究開発法人科学技術振興機構 [JST]、株式会社千總、ネオマテリア、エス.ラボ株式会社、京都府織物・機械金属振興センター、ルノー (フランス)、ターケット (フランス)、プランゼー (オーストリア)、トライウール (ポルトガル)、国際赤十字委員会 (スイス)